

中  
支  
方  
受  
証  
報  
法

H-0255

0005

62



第二課長

馬

外務省文化事業部

御中

首題ノ件別紙ノ通報告ス

昭和十三年七月三十日

臨時對支防疫事業部



北・中支派遣防疫部近況報告

文化事業部  
防疫第三課

第一課長

昭和十三年八月  
法財人同  
（取扱者）  
仁 接 受  
會



H-0255

北支防疫部狀況

高木部長六月二十四日東京出發北京到着後山本軍々醫部長ト再協定ノ後北支防疫ノ實施ヲ開始ス

一、七月中旬石井防疫次長以下四十名北京ニ著任シ之ニ依リ北支防疫部員ハ合計百〇五名トナル

二、青島ニハ谷島防疫班員以下十七名ヲ七月十一日派遣シ陸海軍及民團等ト協定シテ専ラ地方人ノ海港防疫ニ從事シツツアリ

三、青島海軍ヨリノ要求ニヨリ芝罘威海衛ニモ防疫醫員ヲ派遣スルコトトナリ來ル八月十二日著任ノ豫定ナリ

四、新郷ニハ應急處置トシテ本月初旬石家莊診療班ヨリ醫員以下五名ヲ派遣シ陸軍防疫部長佐々木軍醫少佐ノ指揮下ニ在リテ地方防疫ニ從事シツツアリシカ二十日北支防疫部ヨリ交養員ヲ派遣セリ

五、天津ニ於ケル「コレラ」流行ニ對シ二十五日班員十六名ヲ派遣シ防疫ニ從事シツツアリ尙濟南ニ班員十名、徐州ニ班員五名、塘沽ニ

班員四名ヲ本月下旬派遣シテ夫々防疫ニ從事セシム

六、防疫班員ノ中一部ハ北京天壇ニ在リテ菊池防疫部長ノ區長ニ依リ防疫業務ニ從事シツツアリ

中支防疫部狀況

一、谷口防疫部長ハ六月二十六日大阪ヲ出發シ二十八日上海到着後舊上海市政府跡ニ在リテ防疫業務ニ從事ス

二、中支防疫部南京支部長小林義雄以下三十一名ハ六月下旬南京ニ著任シ防疫業務ニ服ス

三、叙上兩方面ニ於テコレラ防疫トシテ豫防注射交通檢疫列車其他ノ消毒汚染物件ノ消毒「コレラ」疑アルモノノ隔離等ニ從事シ診療班ト協力シテ「コレラ」患者ノ診療ニモ從事シツツアリ

臨時對支防疫部職員名簿ヲ添附ス

臨時對支防疫部職員名簿

(昭和十三年七月二十五日現在)

H-0255

0000

臨時對支防疫部職員名簿

東京本部

副會長	官川 兼次
專務理事	田邊 文四郎
經理部長	小澤 道雪
主 事	藤 田 通成
囑 託	小 林 榮
雇 員	森 田 聖
全	飯 室 信一

北支防疫部

部長 醫學博士 高木 逸磨 (東大、明四三)

次長 醫學博士 石井 信太郎 (東大、大二三)

職員 醫學博士 村島 鐵男 (日醫學校大三開業試験大三)

班長 醫學博士 谷島 辰男 (東大、昭五)

職員 醫學博士 岸 秀男 (東大、昭五)

全 神山 定治 (北大、昭三)

全 醫學博士 河越 重隆 (東京醫專大三四)

全 松澤 清 (慈惠大、昭三)

全 大里 文祐 (東北帝大、昭五)

全 谷嶋 森壽 (東大、昭七)

全 中川 錦一郎 (東大、昭七)

全 相良 貞直 (東大、昭七)

全 仲野 專一 (金澤醫大、昭七)

全 松林 三吉 (東大、昭八)

警員

藤田雅夫 (慈惠大、昭一〇)

全

藤取常時 (日大専門部昭五)

全

寒川 要 (京大、昭九)

全

柞原貞夫 (東大、昭九)

全

坂部幸雄 (慈惠大、昭一〇)

全

瀬野尙憲 (京大、昭九)

全

間嶋春男 (京大、昭一〇)

全

鈴木知準 (東大、昭一一)

全

牛尾耕一 (東大、昭一一)

全

中山外典雄 (東大、昭一一)

全

沼田 至 (東大、昭一一)

全

小松富三男 (東北帝大、昭五)

班長

越川 彰 (東大、明四四)

警員

駒野丈夫 (東大、昭一二)

全

郭 文宗 (滿大、昭八)

醫員

細井 四郎 (千葉醫大、昭一二)

全 北村 義廣 (東大、昭一二)

全 中尾 喜久 (東大、昭一二)

全 橋本 庄次郎 (京大、昭一二)

全 日野 和徳 (東大、昭一二)

全 坂本 昭 (東大、昭一二)

全 高野 義臣 (満大、昭一二)

全 日野 志郎 (東大、昭一二)

全 青江 善作 (日本医大、昭一二)

全 醫學博士 嵯 永 泰 (セフランス醫専、昭五)

全 大 月 明 (京大、昭一三)

全 池田 泰 (京城醫専、昭一二)

全 何 守 禮 (満大、昭一二)

全 劉 剛 (満大専門部、昭四)

全 王 火 炎 (満大専門部、昭和一三)

技術員

松山庄一 (海軍看護兵大10、阪大外科研究室大15)

全

小糸 肇 (東京寫眞専、昭九)

全

中野正雄 (明治薬専、昭一〇、傳研傳染病學講習昭一二)

全

中川雄三 (東京薬専昭四)

全

道原政雄 (廣陵中、大一一、伝研講習昭五)

全

福地清行 (麻布獸醫畜産、昭九、北研講習昭九)

技術助手

平良富美 (那覇市立高女大15、沖繩縣細菌検査助手昭一二)

全

鈴木一男 (荏原中、大一二、傳研昆蟲研究室昭一三)

全

小鹿嶋 亮 (長崎縣立大村中、昭四、日本電氣工業會社昭九)

調劑長

山口一幸 (東大薬學科、昭九)

調劑員

佐藤武雄 (明治薬學、大八)

全

青山 進 (東京薬専、昭九)

全

關 善二郎 (明治薬専、昭一〇)

全

蒲原 清 (明治薬専、昭一〇)



事務長

江崎 郁郎

(日大法、大三)

全

森 悦五郎

(陸軍主計准尉、大八)

事務員

春山 良吉

(専修大商科三年中退明四二)

全

植山 新藏

(松城高小附設補習校明三二、  
厦門博愛會事務長昭七)

全

高村 博雄

(拓大専門部商科、昭六)

全

三増 英夫

(上智大獨文科、三年中退、昭三、  
文化事業部昭一三)

全

齋藤 清吉

(第一外語英語科、昭四)

全

田中 武一

(長野縣立飯山中、大六)

全

黒田 八藏

(長野松本市簿記校、昭一三)

全

高橋 清吉

(日野高等小、明三三)

看護婦長

田山 コタカ

(香川郡立看護婦養成所、大二、  
駒込病院)

看護婦

小泉 きよじ

(長野試験合格、昭三、  
駒込病院)

全

堀江 トシ

(傳研看護婦養成所、昭七)

全

若山 アヤ

(愛知第二高女、昭六、  
傳研看護婦養成所、昭八)

- 看護婦 金井り志 (長野上田高女、昭五、傳研看護婦養成所昭八)
- 全 鳥居テル (傳研看護婦養成所、昭一〇、東京助産校、昭一一)
- 全 上谷キソイ (福岡縣坂下實科高女、昭三、東大附屬看護婦講習科、昭五)
- 全 古川つか (東大看護婦講習科、昭三)
- 全 大關とき (駒込病院看護婦講習科、昭二〇)
- 全 小池アイ (駒込病院看護婦講習科、昭九)
- 全 末田喬子 (駒込病院看護婦講習科、昭二〇)
- 全 相澤みよし (長野縣白田實科高女、昭八、駒込病院看護婦講習科、昭一一)
- 全 鷹野郷子 (駒込病院看護婦講習科、昭一一)
- 全 平夕子 (三樂病院看護婦養成所、昭二〇)
- 全 村井静江 (三樂醫院看護婦養成所、昭一一)
- 全 庄ノ糸 (福岡縣喜多方實踐高女、昭五、三樂病院看護婦養成所、昭九)
- 全 阿部美子 (千葉大多喜高女、昭八、三樂醫院看護婦養成所、昭二〇)
- 全 村野キヨ (三樂病院看護婦養成所、昭一一)



全	全	全	備人	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	看護婦
井橋秀吉	栗林誠一	沖田民男	谷龜太郎	小松光子	川合千代子	武井美唐	飯塚幸作	宮本要	森田長治	島田ふみ子	大林志づゑ	杉本つな	栗林富喜枝	
(日本橋城東小學校、明三六) 経師	(神田區正則豫校明四五) 自動車運転手	(長野縣伊那郡村立小學校大九) 大工	(長野縣飯田小學校、明四〇) 大工	(文化女學校中退、昭一二、駿河台女 學院タイプライター科、昭一二)	(私立東洋家政女學校、昭四、東洋タ イプライター會社養成所、昭一〇)	(大成中學校、明四五)	(栃木縣北郷第二農業補習學校、大五)	(山口縣長府町豊浦中學校中退、大三四)	(東京自動車學校中退、大四) 日産自動車工員	(駒込病院看護婦養成所、昭二三)	(群馬試験合格昭三、駒込病院)	(靜修家政高女、昭七) 傳研看護婦養成所、昭一〇)	(傳研看護婦講習所、昭一二)	

借人

和久井 成四郎

(栃木縣富山小學校、大七)  
(自動車運轉手)

全

福岡 清吉

(開成中學中退、昭四)  
(自動車運轉手)

全

野口 平八

(新潟縣佐々木村尋常高等科、昭一)  
(自動車運轉手)

全

谷山 義雄

(私立甲種京華商業、大八)  
(自動車運轉手)

全

沖田 修一

(淀橋工學院補習科、昭八)  
(大工)

合計 百五名

中文防護部

部長 醫學博士 谷口 謙二 (東大、大三)

次長 井上 善十郎 (東大、大九)

南京支部長 小林 義雄 (東大、大八)

職員 醫學博士 梅田 芳次郎 (北大、大一五)

澤 純三 (阪大、大一三)

津々見 仙甫 (千葉醫大、昭五)

河部 國太郎 (金澤醫大、昭五)

佐藤 藤雄三 (新潟醫大、昭五)

佐々木 利高 (北大、昭五)

西 信次 (北大、昭六)

吉見 孝一 (阪大、昭六)

吉田 謙親 (阪大、昭七)

中島 武三 (阪大、昭八)

醫 員

間島 修一郎 (阪大、昭八)

田 中 清 (阪大、昭八)

松 島 尉太郎 (北大、昭一〇)

西 村 達 三 (阪大、昭一一)

和 田 秀 雄 (阪大、昭一一)

末 松 昌 一 (阪大、昭一二)

根 井 外喜男 (北大、昭一二)

船 富 光 (阪大、昭一二)

弓 削 五 郎 (台北醫專、昭一〇)

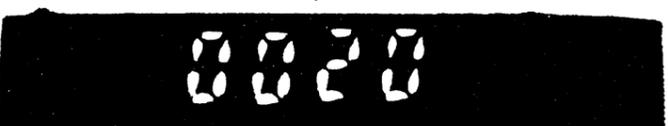
宮 川 一 多 (台北帝大専門部、昭一二)

技 術 員  
吉 坂 泰治郎 (神戸高等専修工業學校中退、大九)

小 林 義一 (谷村臨時小學教員養成所、明四五)

田 中 一 彦 (愛知縣立工業篤眞製版科一年、明四三)

榎 本 清 助 (所澤尋高高等科、大二三)



役員

橋谷 美廣 (京都藥學、大三)

宮崎 三太郎 (東京藥學四年中退、明四二)

竹村 英夫 (東京岩倉鐵道校、昭三)

後藤 喜代一 (關西商工電氣本科、昭一一)

成瀬 達而 (長野縣木曾山林校二年中退、明四五)

大河原 俊平 (大阪府立農學校、昭八年)

水宅 武夫 (長野縣王瀧實業補習校、昭二)

竹山 健志 (鹿兒島縣川内中學校、大二五)

井上 良二 (台南第一中學校、大一二三年中退)

椿 竹次 (熊本縣砥田實業農業校二年  
中退、大一一)

謝 長 孝 (上海東南醫學院、昭七)

山本 愛藏 (兵庫縣赤穂尋高小六年、大六)

星野 源二 (名古屋高商、昭一一)

原島 勝由 (東京府小河内村真小學校、大二三)

技術助手

技術助手

中務 種吉 (大阪南豊島村小學校、大二〇)

飯田 謙嗣 (函館中學校、昭七)

淺井 豊丸 (佐渡中學校、昭五)

山谷 幸治 (東京齒科醫專中退、昭九)

山縣 正人 (根室商業、昭五)

古谷 親雄 (札幌商工二年、昭一三)

諏訪 廣一郎 (札幌一中、昭一一)

小林 敏夫 (札幌商工、昭一二)

梅澤 輝雄 (札幌二中、昭一三)

末永 昌夫 (札幌二中、昭一二)

後藤 新七 (岐阜縣八剣小學校、大四)

調剤員

山邊 徳七 (熊本藥專、昭八)

小關 信 (明治藥專、昭九)

森田 正治 (大阪藥專、昭九)

秋山 弘 (明治藥專、昭九)

樟美 守義 (長崎醫大附屬藥專、昭一〇)

瀧川 幸吉 (大阪藥專、昭一三)

中村 桃吉 (明治藥專、昭一二)

事務長 草壁 龜雄 (佐賀縣唐津中學四年中退大三、北京同學會大五)

藤瀬 次郎一 (神戸高等商業學校、大一三)

事務員 藤田 清 (小西藥學、昭一三)

海保 直史 (中大專門部商科、大一二)

李 泉 (台灣總督府國語學校師範部明三)

松田 輝彦 (鳥取商業、大四)

矢吹 政治郎 (福島縣石川中學、昭四)

東 鏡一 (關西大學第二商業昭五)

看護婦長 齋藤 シゲ (新潟醫專附屬看護婦養成所、大四)

看護婦 松本 ハツ (看護婦講習所、六一四、産婆講習所、昭三)



看護婦

奥田 時子 (海軍共済組合呉病院看護婦講習所昭三)

金刺 ヨシノ (台北醫院看護婦養成所、昭三)  
(台北醫院助産婦科、昭五)

松崎 ミズエ (大阪松岡外科附屬看護婦學校、昭四)

福岡 絹子 (三重縣岡波病院附屬看護婦學校、昭五)

谷村 サキ (大阪緒方病院看護婦教育所、昭六)

浦枈 アキ子 (台北醫院看護婦講習所、昭八)

瀬田 ヒサ子 (熊本看護婦講習所、昭六)

森本 スエ (尼崎市産婆養成所、昭四)

藤原 君江 (福岡市福岡産婆學校、昭九)

柿田 スエ (大阪醫專附屬看護婦學校、昭七)

市原 タカヨ (島根縣邑智女學館、昭六)  
(大阪市土肥病院看護婦養成所、昭九)

松岡 光枝 (大阪市民病院看護婦生徒、昭七)  
(同病院産婆生徒、昭一〇)

坂本 米子 (鳥取市吉田看護婦養成所、昭六)

井口 きよ子 (大阪府産婆檢定試験合格、昭七)  
(大阪府看護婦試験合格、昭一〇)

看護婦

内田 ミキ (大阪市原田看護婦養成所、昭九)

西上 トシエ (三原市看護婦講習所、昭一一)  
同産婆講習所、昭一二

半田 二子 (岡山縣衛生會産婆看護婦学校、昭二〇)

徳原 千代子 (大阪市大阪看護婦学校、昭一一)

鳥井 はな子 (金澤醫大附屬醫院看護婦養成所、昭七)

八木 マサ子 (大阪市原田産婆看護婦養成所昭一〇、同産婆科昭一一)

宇野 房江 (大阪市稻葉病院見習看護婦、昭六)  
大阪府谷口醫院見習看護婦、昭七)

吉水 澄江 (台北醫院看護婦講習所  
台北醫院助産婦講習所、昭二三)

鹽田 哲子 (台南看護婦講習所、昭一〇)

大友 芳子 (台北醫院看護婦講習所、昭二〇)  
台北醫院産婆講習所、昭二三)

川上 サダメ (台北醫院看護婦講習所昭二三)

溝田 フミ子 (台北看護婦講習所、昭二三)

雇員

池羽 邦雄 (明治商業、大一一〇)

蓮井 ユキ子 (備後橋タイピスト養成所昭二三)



備人

江淵 俊雄 (久留米市尋高高等科、大二)

市 市郎 (高岡尋高等三學年卒業、大三)

陳 培 輝 (台北大稻埕公學校、大七)

吉 田 定 夫 (大阪市北尋高高等科、大九)

矢 倉 幸 作 (大阪府千早村農業補習校、大二三)

出 野 實 (松山市立小學校、大六)

日 外 庄 太 郎 (大阪市關西甲種商業學校本科二年中退、大九)

樋 岡 暎 吉 (鹿兒島縣肝屬郡大根分町神川尋高高等科大、一三)

豐 崎 武 夫 (關大第二商業第三學年修業昭三)

高 安 芳 一 (大阪高安尋高高等科、昭四)

青 柳 勇 (札幌市苗穂小學校高等科、昭四)

熊 谷 清 (蒲田自動車學校、昭四)

澁 谷 政 藏 (新潟縣北蒲原郡五十公野尋高高等科、明三九)

小 山 鐵 四 郎 (北海道余市町沖尋常、大四)

0025

備人

石森佐一 (瀬戸田高等小學校、大二)

小山壽太郎 (香川縣乙種高業二年、大八)

山本彌太郎 (大阪小路小學校、大六)

渡邊 薫 (福井市進歩小學校、大二三)

磯野 榮治郎 (北海道洞爺高、大四)

浦柄 清太郎 (島根縣川本町小學校明四二)

藤島 福太郎 (元佐世保海軍病院、同海兵團廚夫)

松原 明 (札幌市西創成尋高等科、昭三)

森 猛 (北海道仁木村尋高等科、大一一)

敵 訪 エイ (岩手縣盛岡高女、明四〇)  
全 校補習科、明四一

高田 羨 男 (大分縣豊岡尋高等科、昭六)

合計 百二十二名

總計 百二十七名

13. 8. 10  
濟

文化  
8.5  
臨時

第二課長

62

文化事業部  
臨時第二六號

昭和十三年八月三日

臨時對支防疫事業部

代表者 宮川米次



外務大臣 宇垣一成 殿

魚

北支防疫班ノ名稱其他ニ關スル現地報告書轉送ノ件

首題ノ件ニ關シ今般北支防疫班ヨリ貴大臣宛別紙ノ通報告越シタル  
ニ付右茲許轉送ス

追而右弊部派遣北支防疫班ノ名稱ハ中支防疫部（本部上海ニ在リ）  
トノ對照上當分ノ間當方ニ於テハ北支防疫部ト呼稱致シ居ルニ付  
右ニ御了承相成度此段爲念申添フ

第一課ノ二  
處

昭和十三年八月五日  
法財團同仁會

手  
書  
一

H-0255

0028

昭和十三年七月二十五日

北支防疫班々長高木逸彦



外務大臣 宇垣一成 殿

防疫班 一 號

班ノ名称並本部所在地ニ關スル件

本防疫班ノ名称ニ關シテハ五月二十二日ノ決定ニ依リ北支防疫班ト呼称シ居リ候處其後北支同仁會防疫部ト改称スル様口頭指示相成リ以未實施シ来リタルガ當現地ニ在リテハ對軍部關係モアリテ種々支障相生シ候ニ付當初通り呼称スルコトニ致シ度候條若御承認ノ上尔後公文書通信等左記ニ依リ御取扱相成度此段及報告候也

記

一 本部名称 北支防疫班

一 本部所在地 北京王府大街東昌胡同一號

一 電話番號 東局五四〇〇番

一 左記各地派遣班ハ尔後北支防疫班何々分班ト名称ス  
青島 天津 塘沽 濟南 徐州 新郷

(北京東亞公司納)

昭和十三年七月二十七日

北支防疫班班長 高木逸麿



外務大臣 宇垣一成 殿

防疫第一〇號

北支防疫班、編成及配置状況報告、併

北支防疫班ハ七月十九日第五回三十九名、着任ヲ以テ  
豫定計畫、全負充實ヲ見タルガ七月二十七日現在ニ  
於ケル班、編成並班員配置状況別表、通りニ有之目下  
軍醫部ニ附屬シ防疫業務援助中ノナリ  
右及報告候也

(北京東亞公用社)



編成表

昭和十三年七月二十七日現在

北支防疫班

北支防疫班編成表

七月二十七日現在

計	任地	北京	天津	塘沽	青島	濟南	徐州	新鄉	東京	太原	計
三九	醫	九	七	四	六	四	四	三	二		三九
二	負	二									二
六	調										六
七	劑										七
五	負										五
一四	技										一四
九	術										九
小	負										小
六	事										六
	務										
	負										
	雇										
	負										
	看										
	護										
	婦										
	其										
	他										
	念										
	計										

一〇六

北支防疫班編成表

(七月二十七日現在)

班長 高木逸磨  
副班長 石井信太郎

北京本部

班長 高木逸磨  
副班長 石井信太郎  
事務長 江崎郁郎  
醫員 松林三吉 (傳染病學)  
郭文宗 (水質調査)  
崔永泰 (細菌學)  
河越重隆 (内科細菌學)  
松澤清 (細菌學) (天津分班助勢中)

醫員 高野義臣 (病理寄生蟲)  
岡藤武雄 (傳染病學) (天津分班助勢中)  
佐藤善二郎 (藥劑師)

技術員 中川雄三 (ワクナン検査)

事務員 中野正雄 (ワクチン製造)

全 榎山新藏 (庶務主任)

全 春山良吉 (經理主任)

全 高村博雄 (會計)

全 齋藤清吉 (庶務)

全 高橋清吉 (會計)

全 黒田八藏 (會計)

全 小島一男 (技術助勢)

全 鈴木一男 (昆蟲學)

全 泉林誠一 (運轉手)



塘沽

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
醫負	岸	大月	橋本庄次郎	細井四郎	以上	以上	以上	以上	以上
秀男	明	明	明	明	明	明	明	明	明
(内科病理學)	(細菌學)	(細菌學)	(内科細菌學)	(小兒科)	(小兒科)	(小兒科)	(小兒科)	(小兒科)	(小兒科)

青島

介班長	寒川	北村	中尾	駒野	池田	以上
辰男	要	義廣	喜久	文夫	泰	以上
(内科)	(傳染病學)	(内科)	(内科)	(内科)	(内科)	(内科)

濟南

醫負	福田雅夫	柞原貞夫	日野和徳
(傳染病學)	(内科)	(内科)	(内科)



醫 負 鈴木知準 (内科)  
 技術負 道原政雄 (ワタチン製造技術)  
 雇 負 飯塚幸作 (事務)  
 全 小泉きよ子 (看護婦)  
 全 鷹野郷子 (全)  
 全 島田小み子 (全)  
 全 未田喬子 (全)  
 以上 一〇名

徐州

醫 負 牛尾耕一 (内科)  
 全 中山外興雄 (全)  
 全 沼田至 (全)  
 全 神山定治 (傳染病學)

技術負 松山庄一 (ワタチン製造)  
 以上 五名

新 郷

醫 負 阪部幸雄 (傳染病學)  
 全 坂本昭 (内科)  
 全 鷹野常時 (細菌學)  
 以上 三名

東京出張中

醫 負 中川錦一郎 (傳染病學)  
 全 相良貞直 (全)  
 以上 二名



臨時對支防疫部職員名簿

(昭和十三年七月二十五日現在)

H-0255

臨時對支防疫部職員名簿

東京本部

副會長	宮川米次
專務理事	田邊文四郎
經理部長	小澤道壽
主事	藤田通成
囑託	小林榮
雇員	森田聖
全	飯室信一

陸軍省  
評合

外務省  
評合

北支防疫部

囑

囑

囑

囑

囑

囑

囑

囑

全

醫員

班長

醫員

次長

部長

醫學博士

醫學博士

醫學博士

醫學博士

醫學博士

高木 逸磨 (東大、明四三)  
明治十七年一月二十四日生

石井 信太郎 (東大、大一三)  
明治三十一年一月二十日生

村島 鐵男 (日醫學校大ニ開講試験大三)  
明治二十二年三月二十日生

谷島 辰男 (東大、昭五)  
明治三十七年九月二十八日生

岸 秀男 (東大、昭五)  
明治三十八年四月二十日生

神山 定治 (北大、昭三)  
明治三十四年九月六日生

陸軍省  
評合

外務省  
評合

全

囑

囑

囑

囑

囑

全

醫學博士

河越 重隆 (東京醫專大一四)  
明治三十二年三月九日生

松澤 浩 (慈惠大、昭三)  
明治三十五年七月十五日生

谷嶋 森壽 (東大、昭七)  
明治四十年七月十五日生

中川 錦一郎 (東大、昭七)  
明治四十年十一月十四日生

相良 貞直 (東大、昭七)  
明治三十九年十月十日生

仲野 專一 (金澤醫大、昭七)  
明治三十八年十二月十七日生

松林 三吉 (東大、昭八)  
明治四十年十二月十三日生

H-0255

陸軍省  
陸軍省  
陸軍省

陸軍省  
陸軍省  
陸軍省

囑

囑

囑

囑

囑

囑

囑

囑

囑

囑

囑

囑

囑

囑

全

醫  
員

班  
長  
(軍醫中將)

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

醫  
員

鈴木知準 (東大、昭一一)  
 明治四十二年五月十一日生

牛尾耕一 (東大、昭一一)  
 明治四十五年一月十八日生

中山外與雄 (東大、昭一一)  
 明治四十三年十月十四日生

沼田至 (東大、昭一一)  
 明治四十一年八月十八日生

越川彰 (東大、明四四)  
 明治十七年五月十三日生

駒野丈夫 (東大、昭一二)  
 明治四十四年五月二十七日生

郭文宗 (滿大、昭八)  
 明治四十一年十二月十九日生

藤田雅夫 (慈惠大、昭一〇)  
 明治四十年六月二日生

藤取常時 (日大專門部昭五)  
 明治三十七年六月二十日生

寒川要 (京大、昭九)  
 明治四十年八月十八日生

柞原貞夫 (東大、昭九)  
 明治四十一年八月九日生

坂部幸雄 (慈惠大、昭一〇)  
 明治四十二年四月七日生

瀬野尙憲 (京大、昭九)  
 明治四十二年八月二十二日生

間嶋春男 (京大、昭一〇)  
 明治四十五年三月二十二日生

陸軍省  
轉任  
外科省

囑

醫員

囑

全

囑

全

囑

全

囑

全

囑

全

囑

全

細井 四郎 (千葉醫大、昭一二)

明治四十一年二月十五日生

北村 義廣 (東大、昭一二)

大正二年十一月八日生

中尾 喜久 (東大、昭一二)

明治四十五年一月二十二日生

橋本 庄次郎 (京大、昭一二)

明治四十年七月十三日生

日野 和徳 (東大、昭一二)

明治四十四年八月八日生

坂本 昭 (東大、昭一二)

大正二年七月二十四日生

高野 義臣 (満大、昭一二)

明治四十三年十一月二十一日生

日野 志郎 (東大、昭一二)

大正元年十月十六日生

醫學博士  
崔 永泰 (セブランス醫専、昭五)

明治四十二年五月二十八日生

大月 明 (京大、昭一三)

明治四十三年七月二十五日生

池田 泰 (京城醫専、昭一二)

明治四十四年五月十一日六日生

何守 禮 (満大、昭一二)

宣統二年十二月二十日生

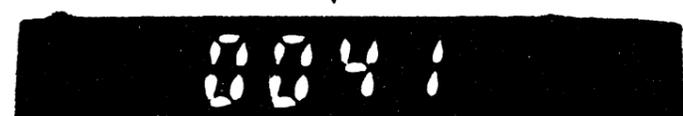
劉剛 (満大専門部、昭四)

光緒三十一年三月二日生

王 炎 (満大専門部、昭和一三)

明治四十三年七月二日生

H-0255



陸軍省  
陸軍少将

陸軍省  
少将

囑

技術員

松山 庄一 (海軍看護兵大一〇、  
明治三十年八月一日生)

囑

全

小糸 藤 (東京寫眞專、昭九)  
明治四十五年一月二日生

囑

全

中野 正雄 (明治藥專、昭一〇、  
傳研傳染病學講習昭一二、  
大正元年九月二十八日生)

囑

全

中川 雄三 (東京藥專昭四)  
明治三十七年一月十日生

囑

全

道原 政雄 (廣陵中、大一、  
傳研講習昭五、  
明治三十六年十一月二十日生)

囑

全

福地 清行 (麻布獸醫畜産、昭九、  
北研講習昭九、  
明治四十五年一月十日生)

囑

技術員

平良 富美 (那霸市立高女大一、  
沖繩縣細菌検査助手昭一二、  
明治四十二年三月十九日生)

囑

全

鈴木 一男 (荏原中、大一、  
傳研昆蟲研究室昭一三、  
明治三十八年九月六日生)

技術員

小鹿 嶋 勇 (長崎縣立大村中、昭四、  
日本電氣工業會社昭九、  
明治四十四年一月十四日生)

囑

調劑長

山口 一孝 (東大藥學科、昭九)  
明治四十五年七月二十日生

囑

調劑員

佐藤 武雄 (明治藥學、大九)  
明治三十二年八月十日生

囑

全

青山 進 (東京藥專、昭九)  
明治四十二年五月八日生

囑

全

關 善二郎 (明治藥專、昭一〇)  
大正二年八月十日生

囑

全

蒲原 清 (明治藥專、昭一〇)  
大正三年十二月九日生

H-0255

0042

囑

囑

事務長

江藤 郁郎 (日大法、大三)

明治三十三年十二月十九日生

囑

全

森 悦五郎 (陸軍主計准尉、大八)

明治十七年十月十五日生

囑

事務員

春山 良吉 (専修大商科三年中退明四三)

明治二十三年三月一日生

囑

全

榎山 新藏 (花城高小附設補習校明三三)

明治十六年一月十日生

囑

全

高村 博雄 (拓大専門部商科、昭六)

明治三十九年九月二十二日生

囑

全

三増 英夫 (上智大獨文科、三年中退、昭三)

明治三十九年二月一日生

囑

全

齋藤 清吉 (第一外語英語科、昭四)

明治四年二月十九日生

陸軍少佐  
銜

囑

全

田中 武一 (長野縣立飯山中、大六)

明治三十三年三月二十九日生

囑

全

黒田 八藏 (長野松本市簿記校、昭一三)

明治四十一年九月六日生

囑

全

高橋 清吉 (日野高等小、明三三)

明治十八年十月一日生

囑

看護婦長

田山 コタカ (香川郡立看護婦養成所、大二)

明治三十一年一月二十七日生

囑

看護婦

小泉 きよ子 (長野試験合格、昭三)

明治四十三年四月十日生

囑

全

堀江 トシ (傳研看護婦養成所、昭七)

大正三年一月一日生

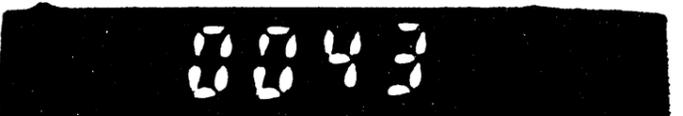
囑

全

若山 アヤ (愛知第二高女、昭六)

傳研看護婦養成所、昭八

大正二年五月十一日生







備人

和久井 成四郎 (栃木縣富山小學校、大七)

明治四十五年六月二十日生

福岡 清吉 (開成中學中退、昭四)

明治四十一年四月一日

野口 平八 (新潟縣佐々木村尋常高等科、明四)

明治三十五年四月十一日

谷山 義雄 (私立甲種京華商業、大八)

明治三十四年九月三十日生

沖田 修一 (淀橋工學院補習科、昭八)

大正八年六月一日生

H-0255

0046

陸軍省  
評令

外務省  
評令  
中央防疫部

囑

囑

部長 醫學博士

谷 口 腴 二 (東大、大三)  
明治三十九年二月十五日生

囑

囑

次長

井 上 善十郎 (東大、大九)  
明治二十六年八月二十三日生

囑

南京支部長

小 林 鶴 雄 (東大、大八)  
明治三十四年五月十日生

囑

醫員 醫學博士

梅 田 芳次郎 (北大、大一五)  
明治三十四年六月二十三日生

囑

海

津 嶋 純 三 (阪大、大一三)  
明治三十九年五月十九日生

囑

津々見 仙 甫 (千葉醫大、昭五)

明治三十五年九月二十八日生

陸軍省  
評令

外務省  
評令

囑

囑

河 部 國太郎 (金澤醫大、昭五)

明治三十八年五月一日生

囑

囑

佐 藤 雄 三 (新潟醫大、昭五)

明治三十五年二月八日生

囑

佐々木 利 高 (北大、昭五)

明治三十七年三月十八日生

囑

西 信 次 (北大、昭六)

明治四十年六月十六日生

囑

囑

吉 見 幸 一 (阪大、昭六)

明治三十五年四月三十日生

囑

吉 田 謙 嗣 (阪大、昭七)

明治三十七年九月十五日生

囑

中 島 武 三 (阪大、昭八)

明治三十九年十月二十三日生



陸軍省  
評合

外務省  
評合

囑

囑

囑

囑

囑

囑

囑

審員

間島 修一郎 (阪大、昭八)

明治四十三年三月五日生

田中 清 (阪大、昭八)

明治三十九年三月三日生

松島 尉太郎 (北大、昭一〇)

明治四十四年六月三日生

西村 達三 (阪大、昭一一)

明治四十四年三月六日生

和田 秀雄 (阪大、昭一一)

明治四十五年一月七日生

末松 昌一 (阪大、昭一二)

明治四十三年九月十一日

根井 外喜男 (北大、昭一二)

大正二年五月二十四日生

船富 光 (阪大、昭一二)

明治四十五年八月二十二日生

弓削 五郎 (台北醫專、昭一〇)

大正三年一月二十日生

宮川 一多 (台北帝大専門部、昭一二)

大正四年一月八日生

吉坂 泰治郎 (神戸高等専修工業學校中退、大九)

明治三十三年五月二十日生

小林 一義 (谷村臨時小學教員養成所、明四五)

明治二十七年三月五日生

田中 一彦 (愛知縣立工業寫真製版科一年、明四三)

明治十七年一月二十三日生

榎本 清助 (所澤尋高高等科、大二)

明治三十一年四月十一日生

0048

H-0255

陸軍省  
評定

外務省  
評定

技術員

橋谷 英 廣 (京都藥學、大三)  
明治三十九年九月多日生

宮崎 三太郎 (東京藥學四年中退、明四二)  
明治三十四年三月一日生

竹村 英 夫 (東京岩倉鐵道校、昭三)  
大正二年一月一日生

後藤 喜代一 (關西商工電氣本科、昭一一)  
大正五年二月十五日生

成瀬 進 而 (長野縣木曾山林校二年中退、明四五)  
明治三十八年五月十日生

大河原 俊 平 (大阪府立農學校、昭八年)  
大正三年三月三十日生

水宅 武 夫 (長野縣王瀧實業補習校、昭二)  
明治四十一年九月一日生

竹山 健 志 (鹿兒島縣川内中學校、大一一)  
明治三十八年十二月六日生

井上 良 二 (台南第一中學校、大一二三年中退)  
明治四十一年十二月五日生

椿 竹 次 (熊本縣砥田實業農學校二年)  
中退、大一一  
明治四十一年十月二日生

謝 長 壽 (上海東南醫學院、昭七)  
明治四十二年一月十日

山本 愛 藏 (兵庫縣赤穂尋高小六年、大六)  
明治三十八年二月二十五日生

星野 源 二 (名古屋高商、昭一二)  
大正四年二月二十四日生

原 島 勝 由 (東京府小河内村東小學校、大二三)  
明治四十四年十月十二日生

技術助手

H-0255

陸軍省  
聯合

外務省  
聯合

技術助手

中 務 種 吉 (大阪南豊島村小學校、大二〇)  
明治四十一年七月十五日生

飯 田 謙 嗣 (函館中學校、昭七)  
大正三年八月八日生

淺 井 豊 丸 (佐渡中學校、昭五)  
大正二年一月十九日生

山 谷 幸 治 (東京齒科醫專中退、昭九)  
大正三年四月十九日生

山 縣 正 人 (根室商業、昭五)  
大正元年十二月十六日生

古 谷 親 雄 (札幌商工二年、昭一三)  
大正六年十月四日生

諏 訪 廣 一 郎 (札幌一中、昭一一)  
大正七年十一月十一日生

小 林 敏 夫 (札幌商工、昭一二)  
大正七年十月十七日生

梅 澤 暉 雄 (札幌二中、昭一三)  
大正十年一月二十三日生

末 水 昌 夫 (札幌二中、昭一二)  
大正八年十二月九日生

後 藤 新 七 (岐阜縣八剣小學校、大四)  
明治三十三年十月十六日生

山 邊 徳 七 (熊本藥專、昭八)  
明治四十五年三月十四日生

小 關 信 (明治藥專、昭九)  
明治四十二年五月二十日生

森 田 正 治 (大阪藥專、昭九)  
大正二年七月二十七日生

囑  
囑  
囑

調劑員

陸軍省  
評名

外務省  
評名

囑

囑

囑

囑

囑

囑

囑

囑

看護婦

看護婦長

"

"

"

"

"

囑

囑

囑

囑

囑

囑

囑

事務員

事務員

"

"

"

"

秋山 弘 (明治藥專、昭九)  
明治四十五年一月十一日生

榎美守 義 (長崎醫大附屬藥專、昭一〇)  
大正二年八月一日生

瀧川 幸吉 (大阪藥專、昭一三)  
大正五年二月二十日生

中村 桃吉 (明治藥專、昭一二)  
明治四十五年四月二十日生

草壁 龜雄 (佐賀縣唐津中學四年中退大三)  
明治三十年四月一日生

藤瀬 次郎一 (神戸高等商業學校、大一三)  
明治三十四年十月十二日生

藤田 清 (小西藥學、昭一三)  
明治三十五年三月十日生

海保 直史 (中大專門部商科、大一二)  
明治三十二年二月十日生

李 泉 (台灣總督府國語學校師範部明三)  
明治三十一年十一月二十二日生

松田 輝彦 (鳥取商業、大四)  
明治三十年四月十五日生

矢吹 政治郎 (福島縣石川中學、昭四)  
明治四十四年九月二十四日生

東 義一 (關西大學第二商業昭五)  
明治四十三年二月二十五日生

齋藤 シゲ (新潟醫專附屬看護婦養成所、大四)  
明治三十七年十月十日

松本 ハツ (看護婦講習所、大一四 看護講習所、昭二)  
明治三十七年九月一日

陸軍省  
聯合

陸軍省  
聯合

看護婦

奥田 時子 (海軍共済組合吳病院看護婦講習所昭三、  
明治四十四年八月十日生)

金刺 ヨシノ (台北醫院看護婦養成所、昭三、  
台北醫院助産婦科、昭五、  
明治四十四年二月三日生)

松崎 ミズエ (大阪松岡外科附屬看護婦學校、昭四、  
明治四十四年七月十六日生)

福岡 絹子 (三重縣岡波病院附屬看護婦學校、昭五、  
大正二年十一月二十日生)

谷村 サキ (大阪緒方病院看護婦教育所、昭六、  
大正二年一月二十二日生)

浦橋 アキ子 (台北醫院看護婦講習所、昭八、  
大正五年八月二十日生)

瀬田 ヒサ子 (熊本看護婦講習所、昭六、  
大正四年六月十七日生)

森本 スエ (尼崎市産婆養成所、昭四、  
大正三年五月三日生)

藤原 君江 (福岡市福岡産婆學校、昭九、  
大正五年七月二十五日生)

柿田 スエ (大阪醫專附屬看護婦學校、昭七、  
大正二年一月十日生)

市原 タカヨ (島根縣邑智文學館、昭六、  
大阪市土肥病院看護婦養成所、昭九、  
大正二年十一月三日生)

松岡 光枝 (大阪市民病院看護婦生徒、昭七、  
同病院産婆生徒、昭一〇、  
大正四年十月二十二日生)

坂本 米子 (鳥取市吉田看護婦養成所、昭六、  
大正六年五月二日生)

井口 喜上丞 (大阪府産婆檢定試驗合格、昭七、  
大阪府看護婦試驗合格、昭一〇、  
大正三年九月二十七日生)

陸軍省  
評定

外務省  
評定

看護婦

内田 幸子 (大阪市原田看護婦養成所、昭九)

大正六年二月二十日生

西上 トシエ (三原市看護婦講習所、昭一一)

大正六年五月三十日生

半田 二子 (岡山縣衛生會産婆看護婦學校、昭一〇)

大正七年六月十九日生

徳原 千代子 (大阪市大阪看護婦學校、昭一一)

大正八年二月五日生

鳥井 はな子 (金澤醫大附屬醫院看護婦養成所、昭七)

大正四年一月一日生

八木 マサ子 (大阪市原田産婆看護婦養成所昭一〇、同産婆科昭一一)

大正四年三月二十五日生

宇野 房江 (大阪市稻葉病院見習看護婦、昭六)

大正六年十一月二十五日生

吉永 澄江 (台北醫院看護婦講習所、台北醫院助産婦講習所、昭一三)

大正七年三月二十日生

豊田 留子 (台南看護婦講習所、昭一〇)

大正七年二月二十五日生

大友 芳子 (台北醫院看護婦講習所、昭一〇)

大正八年三月二十三日生

川上 サダメ (台北醫院看護婦講習所昭一三)

大正九年四月十八日生

帯田 フミ子 (台北看護婦講習所、昭一三)

大正九年六月二十四日生

池羽 邦雄 (明治商業、大一〇)

明治三十八年一月二十七日生

藤井 ニキ子 (備後橋タイピスト養成所昭一三)

大正十一年三月十二日生

備人

江淵 俊雄 (久留米市尋高高等科、大二)  
明治三十二年一月十四日生

下市 郎 (高岡尋高等三學年卒業、大二)  
明治三十一年二月二十日生

陳 培 輝 (台北大稻埕公學校、大七)  
明治三十五年八月四日生

吉 田 定 夫 (大阪市北尋高高等科、大九)  
明治三十九年十一月五日生

矢 倉 幸 作 (大阪府千早村農業補習校、大二三)  
明治三十九年十一月二十日生

出 野 實 (松山市立小學校、大六)  
明治三十八年三月五日生

日 外 庄太郎 (大阪市關西甲種商業學校本科二年中退、大九)  
明治三十三年三月二十日生

榎 岡 敏 吉 (鹿兒島縣肝屬郡大根分町神  
川尋高高等科大、一三)  
明治四十二年三月十日生

豐 崎 武 夫 (關大第二商業第三學年修業昭三)  
明治四十一年七月二十日生

高 安 芳 一 (大阪高安尋高高等科、昭四)  
大正四年十月十四日生

青 柳 勇 (札幌市苗穂小學校高等科、昭四)  
大正四年三月二十二日生

熊 谷 清 (蒲田自動車學校、昭四)  
明治三十八年一月十五日生

鎌 谷 政 敏 (新潟縣北蒲原郡五十公野  
尋高高等科、明三九)  
明治三十七年三月十七日生

小 山 鐵四郎 (北海道余市町沖尋常、大四)  
明治三十四年九月十日生

0054

備人

石 森 佐 一 (瀬戸田高等小學校、大二)  
明治三十一年七月五日生

小 山 壽太郎 (香川縣乙種高等二年、大八)  
明治三十六年十月一日生

山 本 彌太郎 (大阪小路小學校、大九)  
明治四十年十月十三日生

渡 邊 薫 (福井市進歩小學校、大一二)  
明治四十四年二月二十二日生

磯 野 榮治郎 (北海道清帯尋高、大四)  
明治三十二年九月十三日生

浦 柄 清太郎 (島根縣川本町小學校明四二)  
明治三十五年十一月十五日生

藤 島 福太郎 (元佐世保海軍病院、同海兵團尉夫)  
明治二十三年

松 原 明 (札幌市西創成尋高高等科、昭三)  
大正二年九月十日生

森 猛 (北海道仁木村尋高尋常科、大一一)  
明治四十三年十一月十日生

諏 訪 工 一 (岩手縣盛岡高女、明四〇)  
全 校補習科、明四一  
明治三十四年十二月十五日生

高 田 義 男 (大分縣豊岡尋高高等科、昭六)  
大正三年十二月二十四日生



中支防疫第 號

杭州附近コレラ防疫状況視察及業務指導関係件報告  
昭和十三年八月 日 中支同仁會防疫本部長 谷口 臈



八月五日付中支日命第一九一号ニ係ル首題ノ件別冊ノ通り  
報告ス

H-0255

0057

秘

魏州附野ノ事務動脈探査報告

中支同仁會防疫本部長 谷 口 映 二

一、日程及行動

昭和十三年八月六日八時十分 上海出發

同日 日正時五十分 杭州着

梅田班長外班員、出迎ヲ受ケ直ニ移動防疫班ノ作業場ト定メタル浙江病院ニ至リ、梅田班長ヨリ移動防疫班開設後ノ作業状況ヲ聴取シタル後、軍特務機關ヲ訪問シ、防疫係長秦龍勝氏ニ面會（特務機關長、上海出張中）杭州ノ市及隣接地域ニ於ケル「コレラ」發生狀況、之ニ関スル防疫計畫及防疫處置並ニ施設移動防疫班作業ニ関スル希望等ニ就キ懇談シタル後、清水

部隊軍醫部長小林大佐及同仁會第三診療班ヲ訪問懇談宿舎新新旅館ニ宿泊ス。

八月七日

九時移動防疫班作業場ヲ經テ軍特務機關ニ至リ秦防疫係長ノ案内ニテ杭州市自治政府ヲ訪問シ市長何瓚氏ト懇談シタル後市長ノ案内ニテ杭州市防疫設備ヲ視察ス。

視察セル個所ハ今回「コレラ」流行ニ際シ杭州市自治政府ニ於テ新ニ開設シタル時疫病院、杭州市委託傳染病院ナル紅十字會病院、外患者發生家屋一ヶ所及檢疫所一ヶ所ナリ。視察ヲ終リタル後市長、午餐接待ヲ受ケ、重ネテ種々ノ問題ニ就キ懇談セリ。同日午後ハ移動防疫作業所ニ至リ作業ヲ指導監督ス。

八月八日

早朝同仁會第三診療班長中島氏及何市長夫妻、訪問ヲ受ケ、

移動防疫班引キ上ケ後ニ於ケル診療班ト連絡ニ就キ協議シ同意ヲ得タリ（後述）。

後軍特務機關及清水部隊軍醫部ニ至リ將來防疫方針ニ関スル私案ヲ報告シ、何市長、寵招黙シ難ク在杭州移動防疫班員一同午餐食、郷食應ヲ受ケ十四時出發上海ニ向フ。途中王店ヨリ派出移動防疫班員和田學士ヲ嘉興マテ同乘セシメ王店ノコレラ發生狀況及防疫處置ニ就キ聴取シ同日十九時上海ニ歸任セリ。

#### 一、杭州市ニ於ケルコレラ發生狀況

杭州市内ニ於ケルコレラ患者ハ七月十九日初發以來八月七日ニ至ル迄、間ニ於テ眞性患者十四名保菌二名（別紙第一圖）ニシテ、市内各地ニ散發スレドモ其ノ發生數ハ一日約一名、割ニテ其ノ流行狀況ハ未ダ憂慮スベキ状態ニアラス。然レドモ市外隣接地區ニ於ケルコレラ流行ハ稍猖獗ヲ極ム同地方ニハ今尚匪賊蟠踞シマリテ詳細不明

ナレドモ患者既ニ數百名ヲ算スト稱セラル。即チ杭州市外ニ於テコレラ流行最モ猖獗ナルハ北方約二十軒、地域塘棲鎮ニシテ既ニ數百名、死亡者ヲ出シ現在患者三百名ニシテ、日々、届出數ニ三十名ナリト言フ。又杭州市、近郊三墩鎮ニ於テモ數十名ノ患者發生セリトノ報アリ。

斯クテ杭州市ハ常ニ之等、近郊ヨリコレラ浸入ノ脅威ノ下ニアリ。

#### 一、防疫處置

杭州市政府ニ於テ本年六月初旬以來コレラ豫防ノ必要ヲ認め、軍特務機關、清水部隊軍醫部、杭州憲兵隊指導下、下市長ヲ委員長トスル防疫委員會ヲ設ケ豫防注射、消毒、隔離及檢疫等ノ處置ニ関スル對策ヲ講ジタリ。而シテ豫防注射ハ現在固定注射班二十三ヶ所、移動注射班六隊ニシテ既ニ住民約十二萬人ニ對シコレラ豫防注射ヲ完了シ、消毒班ハ市衛生課

吏員ヲシテ之ヲ擔任セシメ、檢疫所、停車場(軍醫部ニ委託)、  
拱宸橋及賣魚場、三ヶ所ニ設ケ、隔離病院、今回新ニ市内  
「コレラ」患者ヲ收容スル目的ヲ以テ整備セル時疫病院、一般傳  
染病院トシテ廣濟醫院(米系)、郊外地委託虎疫及傳染病院  
トシテ新民社(湖墅)、廣濟醫院分院(米系、松木場)時疫治療  
所(市直營、三墩鎮)、隔離病院(市直營、塘棲鎮)、外委託傳染  
病院トシテ紅十字會臨時病院(米系)アリテ「コレラ」ニ関スル細菌  
検査ハ廣濟醫院ニ委託セリ。

一 移動防疫班ノ作業

中支同仁會防疫本部派遣移動防疫班ハ八月二日集結ヲ了リ  
翌三日早朝ヨリ作業ヲ開始シ軍特務機關ノ指揮ニヨリ患者  
及保菌者ノ菌檢索、消毒、採便等ノ作業ニ従事シタル、外梅田  
班長ハ特務機關ノ希望ニヨリ市政府ノ「コレラ」防疫及市衛生

行政ノ指導ニ當リタリ。詳細ハ派遣移動防疫班ニ於テ報告スル  
等ニ付省畧ス。但レ本班ノ作業中特筆スベキハ、軍兵站酒保  
主人太田雪太郎(三十九才)ガ「コレラ」保菌者ナルコトヲ發見シタル  
コトニシテ、七月二十八日發病セル眞性「コレラ」患者張錫煌(男、三十五才)  
ガ前記太田ノ使用人ナル爲、張家族及太田家族並ニ使用人ノ檢便  
ヲ行ヒタル結果、張ノ妻女張錦花(三十才)及前記太田ガ「コレラ」保  
菌者ナルコトヲ決定シ、直チニ其旨特務機關及清水部隊ニ  
報告シ清水部隊ニ於テハ直チニ酒保ノ營業ヲ停止シ傳染ノ疑  
アル飲食物ヲ廢棄セシメタリ。コノ點ニ関シテハ清水部隊軍  
醫部長小林大佐ヲ訪問、際謝辞ヲ述ベラレタリ。

一 杭州特務機關ノ希望事項

八月七日杭州特務機關防疫係長秦氏(特務機關長上海出張  
不在)ト會見懇談シタル際ニ於テ現在ノ豫防計畫ヲ實行スル

トキハ、本年度ニ於ケル杭州市、<sup>ハ</sup>近郊ノ流行ヨリ推察  
シテ、將來モ亦其ノ散發、免レザルベカラザルモ流行状態ニ至  
ラシムルコトハナカルベキ事、秦氏ト小官ト、間ニ意見ノ一致ヲ見ル  
而シテ秦氏ハ左ノ點ニ就キ本防疫班ニ對シ希望スルトコトアリ、

(イ) 杭州自治政府防疫委員會ハ市長之カ委員長トナリ常務  
委員、執行委員及委員ノ協議ニヨリテ防疫計畫ヲ決議シ  
實行ニ移スモ、ナルガ、委員會ノ事實上ノ主宰者ハ市政府  
顧問翟氏ニシテ、計畫ハ總ベテ同氏ノ方針ニアルハ現状ナリ、  
然ルニ翟氏ハ本來米系ノ教育ヲ受ケタル醫師ニシテ現在米系  
病院ナル紅十字會臨時病院ノ醫長ナリ、而シテ翟氏熱心  
ナルコトキリスト教信者ニシテ善果ナル紳士如クナルモ其陰ニ於  
テ日本ニ對シ不利ナル行動ヲ取ルル疑ヒアル事ヨリ軍ハ翟氏カ  
杭州市政府衛生行政上ノ事實上ノ主宰者ナルヲ喜ハザルニ

ヨリ梅田班長又ハ適當ナル人物ヲシテ市政府衛生行政ヲ指導  
セシメ漸次翟氏ニ代ラシムル希望アリタリ、

(ロ) コレラレ其ノ他、病原菌ノ檢索ハ廣濟醫院、米系醫師ニ委  
托中ナル點モ亦日本ノ國策上寒心堪ヘズ、仍テ防疫班ニ於テ  
之ヲ擔任スルハ勿論出來得ベクニバ防疫班ニ於テ日系支那醫  
師ヲ教育シ、之ヲシテ米系病院委託ヲ解キ度キ意向ナリ、

一右希望ニ對スル計畫

杭州ハ浙江省ノ首府ニシテ中支ニ於テハ上海、漢口、南京ニ次グ大  
都會ナリ、然モ市民ノ態度ニ於テ杭州ハ蘇州ト共ニ親日的  
傾向最モ顯著ナルモノアリ、  
同仁會ニ於テハ特ニ此點ニ注目スル所アリ、現ニ上海、南京ト  
共ニ診療班ヲ派遣中ナリ、從テ杭州ハ將來中支同仁會防疫  
本部ニ於テ支部設置ノ要アリト認ム、

殊ニ現市長何氏ハ東京帝大農學部卒業生ニテ、夫ハ東京女子醫專ヲ卒業シ現在杭州時疫病院ノ院長ナリ。從ツテ何市長夫妻ハ親日系ナルハ勿論衛生行政ニ關シ最モ理解ト興味ヲ有ス。故ニ衛生行政ヲ日本側ニ於テ主宰スルコトハ最モ有意義ナルモト認メタリ。

然レドモ現在派遣中ノ移動防疫班ハ之ヲ長ク杭州ニ止メ置クコト不可能ニシテ、特ニ梅田班長ハ上海支部防疫班長トシテ防疫班ヲ指揮スル任務ヲ有スル爲上海ニ歸還セシメサルベカラザル事情ニアリ。爲ニ苦心ノ結果左ノ臨時處置ヲ講ジタリ。

(イ) 市衛生行政指導及衛生警察吏ノ教育ハ梅田班長引キ上げ後ハ同仁會第三診療班長代理中島五六氏ヲ中支同仁會防疫本部囑託トシテ之ヲ代理セシム。

(ロ) コレヲ其他ノ細菌検査ハ同診療班技師池田源一氏ヲ同シク

本防疫部ノ囑託トシテ之ヲ擔任セシム

尚移動防疫班細菌検査場ニ於テ支那醫師ノコレヲ菌診斷ニ關スル教育ヲ行ハコトシ、八月八日より毎日午後三、四時間

宛市長夫人ハ時疫病院醫師一名及看護婦一名ヲ引率シテ梅田班長ノ實地教育ヲ受クルコトヲ懇請シタルヨリ之ヲ承認

指導シ梅田班長引キ上げ後ハ前記中島班長代理及池田技師ニ於テ引キ継ギ漸次時疫病院ノ醫師ヲシテ細菌學的診斷法ヲ修得セシムル様計畫セリ。尚市長ノ希望ニヨリ當

分ノ間本防疫部ノ顕微鏡一臺ヲ時疫病院ニ貸與シタリ。

一王店派遣「コレラ」移動防疫班指導

王店ニ於ケル「コレラ」患者ハ八月八日現在四名ナリ。然レドモ當移動防疫班派遣前ニ於テハ細菌検査設備ナク「コレラ」様症狀ヲ以テ急死シタル前記四名ノ内三名ヲ「コレラ」患者ト推定シ第四例

ハ當防疫班ニ於テ細菌學的検査ヨリ眞性コレラト決定シタルモノナリ。

尚王店ニ於テハ住民中コレラ豫防注射ヲ受ケタル者ナレ。故ニ當防疫班ニ於テハ届出患者ノ菌検査、消毒、隔離採便、保菌者檢索、外市民ノ豫防注射ニ當ラレメタリ。

王店ノ人口ハ約七千ナレドモ河ヲ隔テ、東西ニ區ニ區分セラレタル中、東區ハ未ダ充分ナル治安ノ維持ヲ見ザルトコレラ患者ハ專ラ西區域ニ發生セルヨリ豫防注射ハ西區域住民約三千ヲ目標トセリ。

以上ノ防疫方針ヲ實行、曙ハ當地域ノコレラハ大事ニ至ルコトナキモノト認メタリ。

一 意 見

(イ) 杭州及王店ニ於ケル本年度コレラ流行ハ其防疫處置稍

満足スベキモノアルヨリ大事ニ至ルコトナキモノト認ム。

(ロ) 中支同仁會防疫本部ハ將來杭州ニ支部ヲ設ケル必要アリト認ム。

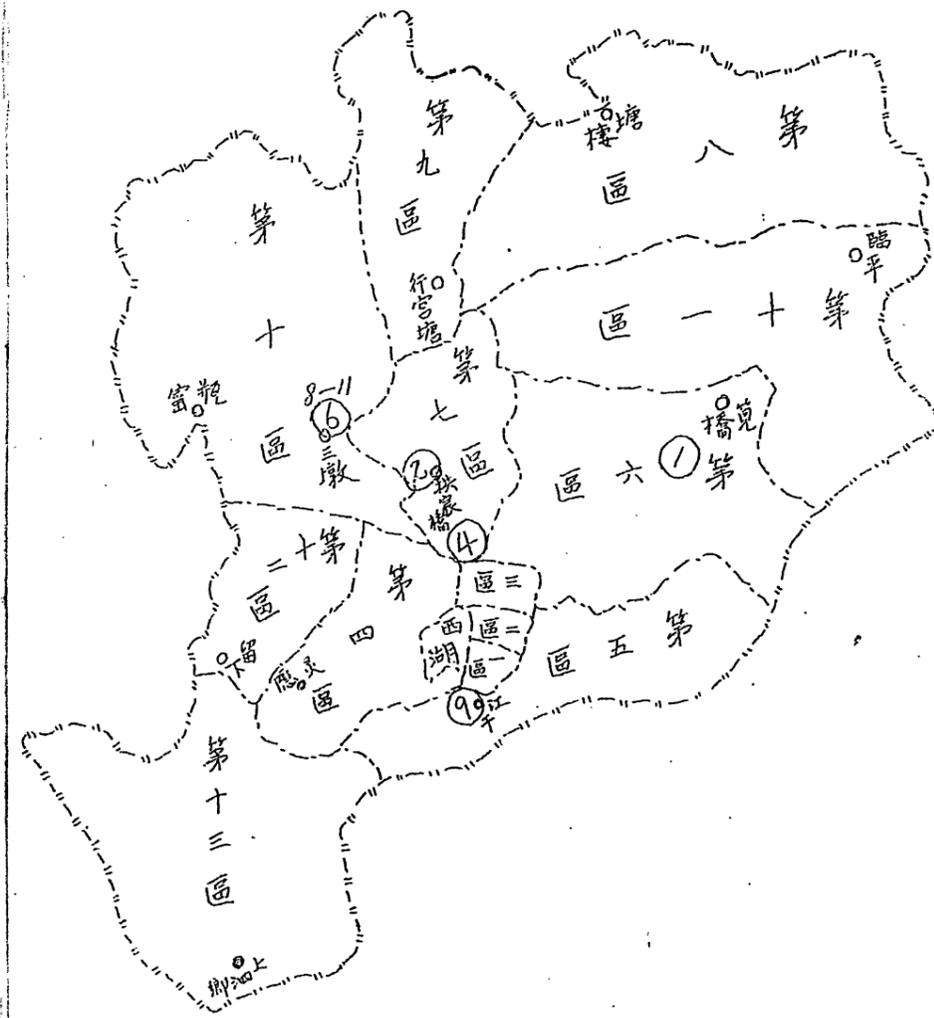
(ハ) 杭州市ノ防疫診療並ニ衛生行政上寒心ニ堪ヘザルハ洋醫數極メテ寡クタルニアリ、速カニ舊浙江省立醫藥專門學校ヲ復活シ、支那醫師ヲ養成スル必要アリト認ム。

(以上)





第一圖 (乙)  
霍亂發生地帶圖



H-0255

0055



中支同仁會防疫本部上海支部半月報 自昭和十三年八月一日 至同 十五日

一、部隊名 中支同仁會防疫本部上海支部

二、編成 本部所屬技術員後藤喜代、運轉手出野實、  
二名南京支部へ勤務替トナリタル他前月ト同様ナリ

三、行動

(1) 防疫班行動

(一) 七月三十日杭州へ移動防疫班派遣準備、爲梅田班長以下  
三名先發

(二) 八月二日同上後發本隊十二名出動、コレラ十九名、防疫診療  
ニ從事シ全員十四名歸還(一名八月九日病氣、爲歸還)

(三) 八月九日通州へ移動防疫班派遣準備、爲吉田医員以下  
二名先發ス

(四) 八月十四日同上後發隊五名出動、コレラ、防疫診療ニ従

事中

(五) 細菌検査件数

(1) 患者検査便数 三五 ウチコレラ菌検出数 七

(2) 健康者検査便数 七一八 ウチコレラ菌検出数 二

(六) 消毒班派遣回数 七

(七) コレラ豫防接種数

八月一日 一四二名(於南京市龍華憲兵分遣所前)

八月二日 一六名(於南京市虎山橋下土哨)

八月九日 二〇名(同上)

(八) 水質検査件数

二 (一、黄浦江減水時、  
二、竹下部隊由良隊)

(四) 特殊診療班行動

(一) 診療患者数

入院者	自八月一日 至八月十五日		累計 延人員
	患者数	延人員	
コレラ	四	一三	一二九
チフス	一		
マラリア	一		
肺結核	一		
健康隔離者	一四		
計	一一	一一	
死亡者	一		
計	一		
外來者	二		
計	十		

移動診療

(二) コレラ豫防接種数

八月二日	一八名 (於南市片山橋)
八月六日	二三名 (同上)
計	二回 (杭州及通州)

四 特記事項

- 一、本部ニ於テ八月十三日ヲ中心トシ七日ヨリ十九日ヲテ自散言團ヲ組織シ、散言備兵ハ十六、十三、十四、三日間ニ亘リ徹宵散言備
- 二、特殊診療班ニ於テ八月五日ヨリ同十七日ヲテ散言備兵常置
- 三、十八日ヨリ二十日ヲテ自散言團ヲ組織シ散言備ニ當ル
- 五、意見見其他 ナシ

陸軍

南京支部 半月報

(自八月一日 至八月十日)

一、防疫班 豫防接種 (コレラ)

南京市内

六二〇八九

浦鎮

五二九五 (八月日分)

二、特殊診療班 患者收容

病名	入院	退院	現在	延人員
赤痢	九	二	七	九一
急性腸炎	七	六	一	三一
胃腸炎	一	一	一	五
腸結核?	一	一	一	九
大腸カタル	七	一	六	一〇〇
チブス	三	一	三	二六
夏季熱	三	一	二	三二
チブス	一	一	一	五
計	四二	二二	三〇	二九九

△備考 急性腸胃カタル、コレラ症候にて入院菌 検索結果 魚菌

三、消毒班 派遣回数

二

四、九江派遣防疫班

豫防接種

七、七三九

以上

小津路



防疫本部事務半月報

自昭和十三年八月一日  
至同 十五年

中支同仁會防疫本部

Vertical text on the left side, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is faint and difficult to read but appears to contain several lines of vertical characters.

防疫事務半月報第二號

昭和十三年八月一日

中支同仁會防疫本部

八月一日(般)

- 一 楊樹浦平涼路「コレラ」患者發生ニ付患者輸送並ニ消毒爲一西 医員外四名出動セルモ患者ハ既ニ工部局隔離病舎ニ收容サレ現場ハ海軍特務部ニ於テ消毒後ナルモ爲念及覆消毒ス
- 二 医極運搬、爲根井医員外五名、吳淞石圍部隊ハ派遣ス
- 三 「コレラ」豫防注射接種、爲西 西村医員外二名、龍華憲兵分遣前ニ出動シ百四十二名ニ接種ス
- 四 時疫医院修繕工事中、處竣工ニ付本部長視察ス

八月二日(般)

- 一 南京市片山橋下ニ哨ヲ設テ西村医員外一名出動シ「コレラ」豫防注射十六名ニ接種ス
- 二 根華医員外五名南京支那ニ送り、桐邑日清汽船唐山丸ニ積込ス
- (又事) 二 杭州移動防護班(後發隊) 宇島医員外十名出發ス

- 二 電氣技術員吉坂恭彦郎 後藤善代(南京支那) 部ニ出張ス

- 三 運轉手出野實南京支那ニ轉功ヲ命ス

- 四 寫本少佐、案内ニ長崎医科大学長 同醫學部

- 長同附属醫院長 視察アリ

八月三日(般)

- 一 赤物浦踏新發株「コレラ」患者四名發生ニ付西

根井医員外五名出動シ陸戦隊狩谷少佐ト協力  
消毒ラシ患者ニ名及「コレラ」保菌(疑)一名ヲ時疫  
医院ニ輸送ス(患者ニ名逃セ)

二大同政府巡警疑似バラチフス患者一名慈善医院  
ヨリ通報ヨリ時疫医院ニ輸送收容ス

八月四日(般)

一南京ニ直航セル医板上海北停車場ニ到着ニ付  
吉田医員外助手「トラック」三基ニテ運搬ス

二新城自然科学研究所長御遺骨上海到着ニ  
付谷口本部長井上次長澤班長謹ミテ御  
出迎ヒ申上ク

三南市憲兵分隊ニ赤痢患者發生ニ付消毒ノ  
爲西村医員外三名出動ス

(又事)

一太倉ヨリ診療班(特志)九名視察ス

八月五日(般)

一「根井」医員外九名ニテ郵船朝日碼頭ヨリ「コレラ」  
ヲ運搬ス

二衛生材料廠ヨリ医板受領打合セ爲楊樹浦第  
六号碇泊地志賀部隊本部(吉田医員ヲ派遣ス

八月六日(般)

一王店ヨリ「コレラ」蔓延ニ付杭州移動防疫班ヨリ一班ヲ  
編成同地ニ派遣セル旨軍特務部ヨリ通報アリ

二吉田根井医員外九名商船碼頭志賀部隊ヨリ  
医板運搬ス

三慈善医院ヨリ通報ヨリ「コレラ」患者一名時疫医  
院ニ輸送收容ス

四警備隊ヨリ十三日上海戰記念日ヲ中心トシテ警言

戒ヲ要スル旨通知アリタルニヨリ夜間外出ヲ禁シ

本日ヨリ自警團ヲ組織シテ徹宵警戒スルコトセリ

八月七日(般) 一 戸田部隊ヨリ糞便検査ノ依頼アリ西村、根井医

員外一名ヲ採便ノ爲派遣ス

(人事) 一 南京出張中、吉坂、後藤電氣技術員歸任ス

八月八日(般) 一 吉田、根井医員外十一名楊樹浦石圍部隊倉庫

ヨリ南京支那部宛、梱包六三三個吳淞石圍部隊

本廠へ運搬ス

二 南京市竹下部隊高下隊ヨリコレラ發生ニ伴消毒並

採便方第六兵站病院ヨリ依頼アリ、タルヨリ西

医員外三名ヲ派遣ス

三 軍特務部ヨリ通州附近ヨリコレラ發生状況調査

並防疫實施ニ關シ移動防疫班編成方命令アリ

(人事) 一 杭州出張中、谷口本部長、田中技術員、黃通

譯歸任ス

八月九日(般) 一 片山橋下土着ヨリ上海出張人ニ對シコレラ豫防注

射依頼アリ、西西村、根井医員出動豪雨中接

種ス

(人事) 一 通州ニ於ケルコレラ發生状況調査ノ爲、吉田医員

山谷助手同地へ出發ス

二 杭州移動防疫班王店派遣中、小林助手病室ノ爲

中村葉劑員ヲ添歸任ス

八月十日(般) 一 新城自然科學研究所、長、葦儀ア、谷ノ本部

長、井上次長、澤班長、曾班長

ニ猛烈ナル暴風雨、爲窓硝子煉瓦塀等、破損  
崩壊アリ

(人事) 一杭州移動防疫班ニ對シ防疫材料(コレラワクチン  
一九五〇人分)補給、爲桶谷技術員淺井助手出  
發ス

ニ中村藥劑員再ビ王店へ向ケ出發ス

八月十日(般) 一通州派遣中、吉田医員ヨリ「コレラワクチン」一萬人  
分及消毒材料持参方電アリ

ニ蘇州特務機關ヨリ水質検査員派遣方要請  
アリ

(人事) 一通州移動防疫後發隊根井、間島医員外三名  
租界内通行危険ニ付東和ホテル及軍特務部ニ

宿泊待機ス

八月十日(般) 一午前一時頃怪人一名本部正門横ヨリ侵入セル旨警  
備兵ヨリ通報アリタルヲ以テ全員ヲ非常呼集、警

備兵ト共ニ部内ヲ探索セルモ發見セズ

ニ中山路上海市政府公署警言察所女警言「コレラ」ニテ

死セセルヲ以テ上海特務機關ヨリ消毒方依頼  
アリ西医員外三名出動シ消毒並ニ四十一名採便  
ヲナセリ

三北村隊ヨリ敬ニ備兵四名ヲ本部ニ派遣シ徹宵  
敬言戒ス

八月十日(般) 一上海戦(週年)記念日ニ相當シ不穩、形勢アルヲ

以テ租界通行禁止ナル

ニ上海市政府公署敬言察所女敬言「コレヲニテ死セ  
ルヲ以テ女敬言十二名子供二名檢便ノ結果決定マテ  
隔離方上海特務機關ヨリ依頼アリシレヲ以テ榎本  
技術員時疫醫院ニ輸送收容ス

三竹下部隊高下隊ニコレヲ「眞性患者發生セルヲ  
以テ消毒採便ノ爲西村医員外五名ヲ派遣ス

四久納部隊田中部隊ニコレヲ「百十六名分ヲ  
手交ス

(入事)

一久納部隊柴田軍医少佐接抄ノ爲來部ス

八月十四日(般)

一久納部隊田中部隊ヨリ檢便ノ依頼アリ

二南京市江南造船所ニ赤痢發生ニ付消毒ノ爲西

医員外五名出勤ス

八月十五日(般)

一特記事項ナレ

(入事)

一杭州特務防疫班梅田班長以下十五名帰任ス

二久納部隊本部光武軍医大佐及慈善医院瀨尾  
班長來部ス

三電氣技術員後藤喜代一南京支部轉勤ヲ命  
ス

防疫本部事務半月報

自昭和十三年七月十五日  
至同三十一日

中支同仁會防疫本部

[Faint, mostly illegible vertical text columns, likely bleed-through from the reverse side of the page]



防疫事務半月報

第一号

自昭和十三年七月十五  
至同 三十一日

中支同仁會防疫本部

七月十五(一般)一、上海特務機関「コレラワクチン」六万五千分ヲ

分譲ス

二、日外運轉于南京支部送り荷物積込中黄浦

江ニ轉落セルヲ以テ為念防疫本部へ隔離ス

(人事)一、今瀬部隊ニ於テ防疫作業修得中ノ西中島

西村醫員本部へ帰任ス

二、大和ホテル宿泊中ノ瀧川調剤員、海保事務員

特殊診療班作業場ニ移宿ス

三、軍司令部ヨリ防疫本部全員軍囑託、發令

アリタル旨軍特務部ヨリ電話アリ

四、通訳兼支那語教師ヲ黄清潔ニ囑託ス

十六日(一般)一、軍特務部ヨリ百人分「コレラ」及「チブス」豫防接

種ニ関シ電話アリ井上次長ヨリ官本軍醫少

佐ニ直接回答ス

(人事)一、軍特務部官本軍醫少佐防疫本部及特殊診

療班、作業場ヲ巡視セラル

十七日(一般)一、西村部隊跡、建物ヲ引継キ渡辺兵站南市

支部ニ於テ引継キニ係ル手續完了ス

二、今瀬部隊ヨリ南市ニコレラ患者發生セリ防疫

本部ニ於テ処置サレタシトノ電話アリ、本防疫班

未だ整備セザルニヨリ取敢へズ今瀬部隊ヨリ

材料ヲ借用シ處置ス

三 嘉興多數ヲ使役シ防疫本部ノ設營ヲ開始ス  
十八日(一般)一 嘉興「コレラ」患者發生ニ付移動防疫班ヲ派遣スベシトノ命令アリ

(人事) 一 東和ホテル、萬歳館、大和ホテルニ分宿中ノ職員本部及特殊診療班ニ全員ヲ集結セラル  
十九日(人事) 一 軍特務部ノ命令ヨリ井上上海支那部長、黃迪

二十日(一般) 一 防疫本部及防疫班、特殊診療班(同公會上海時疫臨時院)ヲ業開始ス  
二 軍特務部ヨリ「コレラ」患者一名ヲ收容ス

三 南市楓林路(防疫本部前)ニ「コレラ」患者一名ヲ發生ニ付患者ヲ時疫臨時院ニ收容スルト同時ニ球場及附近ノ消毒ヲナシ交通ヲ遮断セリ

(人事) 一 特殊診療班勤務事務員海保直史本部へ轉勤ヲ命ズ

二十日(一般) 一 嘉興移動防疫班西醫員外九名出發ス  
二 慈善醫院ヨリ「コレラ」患者三名輸送時疫臨時院ニ收容ス

(人事) 一 業務視察並ニ指導ノ為各々本部長、藤田事務員南系支那へ出發ス

二十二日(一般) 一 防疫本部前ニ「コレラ」様患者發生セリト通報スヨリ吉田中島醫員及助手ヲ派遣シ消毒診療ヲ結果大腸加養兒ニ收容セリ

一、防疫隊保衛隊等名軍特務隊より通報あり時  
防疫隊に收容ス

二十五日(一般) 一、隊員極受領ニ関シ中村藥劑長長吹事務員ヲ吳  
淞石岡部隊へ派遣ス

二、防疫材料配給受領、為吉坂、楠谷技術員ヲ  
吳淞石岡部隊へ派遣ス

(人事) 一、渡辺兵站南支那新山中佐按察、為末部

二十四日(一般) 一、南支憲兵分隊ヲ支那人三十七名ヲ引導シ「コレラ  
ワクチン」注射ノ為末部、吉田、西村、末松、根井  
隊員接種ス

(人事) 一、南支支那出張中、藤田事務員帰任ス

二、嘉興移動防疫班并支那部長以下十一名帰任ス

三、軍特務部長巡視、件ニ関シ官本少佐末訪リ

四、第六兵站病院仙波大尉末部

二十五日(一般) 一、軍特務部原田少将、巡視アリ、井上少長、梅田

班長、渡班長ヨリ作業概要ヲ説明シタル後

各作業場ヲ巡視シ帰還セラル

二、南支憲兵分隊ヨリ「コレラワクチン」接種方依頼

アリ、吉田、末松、根井隊員及助手数名ヲ斜土

路ニ於テ二百十四名ニ接種ス

三、慈善隊醫院及民團ヨリ各一名「コレラ」患者ヲ輸送

收容ス

(人事) 一、南京支那出張中、谷口本部長帰任ス

二十六日(一般) 一、「コレラ」患者擔架ヲ輸送シ道路ニ嘔吐セル旨

時疫醫院ヲ遊報リ吉田醫員及助手出勤シ  
消毒ス

二 外島踏「コレラ」發生家屋ノ消毒並ニ採便ヲ為根井  
及助手ヲ派遣ス

三 慈善醫院ノ紹介ニヨリ「コレラ」患者一名收容ス

四 日本ナルベージ寄本組ノ消毒並ニ採便ヲ為中島  
醫員ヲ派遣ス

(人事) 一 永井是昭醫官嘉興隊備病院安藤准尉兼部  
二 七日(一般) 一 梱包運搬ヲ為根井醫員及助手ヲ上海碼頭へ派  
遣ス

(人事) 一 醫板受領打合セヲ為吉田醫員及磯野機関手  
南支那支那へ出張ス

二十八日(一般) 一 海辺兵站南支那ニ於テ連絡會報アリ梅田班  
長出席ス

(人事) 一 嘉興隊備病院植田軍曹兼部

二十九日(一般) 一 根井醫員外九名吳淞石岡部隊ヲ医板運搬ス  
二 杭州市及近郊ニ「コレラ」猖獗ナルニヨリ防疫班派  
遣方軍特務部ヲ命令アリ

三 本部長追加隊算ニ関シ總領事及軍々医部長  
ヲ訪問ス

(人事) 一 南京支那出張中ノ吉田医員磯野機関手帰任

三十日(一般) 一 根井醫員及助手吳淞石岡部隊ヲ医板運搬ス  
二 杭州移動防疫班編成決定シ軍特務部へ通報ス

三十一日(一般) 一 南京市憲兵分隊ヲ未病患者發生ヲ消毒方

依頼アリ吉田区員外ニ名出勤ス  
ニ楊樹楠ニコレラ患者發生ニ收容方軍特務  
部ヲ通報アリ、租界ノ「トラク」通行ハ二十時以  
後禁止、為患者ノ輸送不可能ニ付、船般ハ不  
現場附近ノ交通ヲ遮断シ明朝輸送スルコトセリ  
(人事) 一梅田班長、東事務員、黃通、杭州移動防疫  
先登トシテ出発ス

...



A

(一) 昭和十二年度ニ於テ助成シタル金拾萬圓也ニ對スル  
決算書並事業施設ノ概要

(二) 昭和十三年度ニ於ケル防疫事業助成ニ對スル施設計  
並並事業進行ノ概要

臨時對支防疫事業部

同  
仁  
會

H-0255

0002

防疫事業關係事項

一、昭和十二年度ニ於テ助成シタル金拾萬圓也ニ對スル決算書故ニ事業施設ノ概要

(一) 決算書別紙ノ通

(二) 事業施設ノ概要

(1) 本部設置

昭和十三年三月三十日財團法人同仁會理事會ノ決議ニ依リ臨時對支防疫事業部ヲ創設セラレ其ノ本部ヲ東京市神田區神保町二丁目一〇財團法人同仁會内ニ置カレ事務ヲ開始ス

四月一日ヨリ五日間京都市ニ於テ開催ノ醫學會開期ヲ利用シ醫界重要人士ノ對支防疫事業實施ニ對スル協力ヲ求ムルコトス  
(官川同仁會副會長ヲ派遣)

(2) 準備

翌十三年度防疫事業ニ對スル應急處置トシテ不取敢防疫藥品類ノ購入ヲナシ防疫班派遣ニ至ル迄ノ之等事業ヲ既ニ現地ニ

同仁會

派遣中ノ診療班ニ依頼スルコトトシタリ

二、昭和十三年度ニ於ケル防疫事業助成ニ對スル施設計畫並ニ事業進行ノ概要

(一) 施設計畫

(1) 調査員ノ派遣

(A) 北支方面

醫學博士高木逸磨ヲ班長トシ外ニ四名ノ者ヲ以テ當方面ニ派遣(四月二十日出發六月十二日歸著)事前ノ調査研究ヲ行ハシメ班員四名ヲ現地ニ殘留事業ノ準備ニ當ラシム

(B) 中支方面

醫學博士谷口映ニヲ班長トシ外ニ五名ノ者ヲ以テ當方面ニ派遣(四月二十六日出發五月十七日歸著)事前ノ調査研究ヲ行ハシメ班員五名ヲ現地ニ殘留事業ノ準備ニ當ラシム

(2) 施設計畫

支那ニ於ケル防疫ニ關スル調査研究並ニ防疫ノ實行ヲ期スル

同仁會



次長		長	
研 査 調	部	務	總
技 術 部	計	備 同 技 術 助 手	事 務 部
員 員 長	一 六	人 八	員 長
二 三 (一)	六 (→)	二 二	一 (一)
京 南	部	支	海 上
長	一	次 長	長
一		(一)	
班 疫 防	班 疫 防	班 疫 防	班 疫 防
技 術 部	技 術 部	技 術 部	技 術 部
員 員 長	員 員 長	員 員 長	員 員 長
員 二 (一)	員 二 (一)	員 二 (一)	員 二 (一)
備 技 術 助 手	備 技 術 助 手	備 技 術 助 手	備 技 術 助 手
人 九	人 九	人 九	人 九

同  
仁  
會

中支防疫部

人員總計 二四二 (九) ( ) 内ハ兼務者ヲ示ス	部 育 教			
	計	技 術 助 手	技 術 員	醫 員 長
	一	五	二	三
	(→) 〇			(→)
	班 疫 防 原 本	班 疫 防 莊		
	事 務 員 長	醫 務 員 長	醫 務 員 長	事 務 員 長
	(→) (二)	三	二 (一)	二
	備 履 看 護 婦 三	技 術 助 手 三	事 務 員 一	備
	計 一 九	員 一	計 二 一	人 九
	(四) 九			

同  
仁  
會

H-0255

0005

(ハ) 防疫班派遣ニ對スル準備行動

右諸情況ノ下ニ派遣員ノ人選並ニ編成ヲ行ヒ六月中旬ヨリ逐次現地ニ派遣シ現地ニ於ケル準備ノ完成ニ努メシメ七月中旬

	部 究		技 術 助 手 三		
	計		八(→)		
		部 支		次 長	
				一	
			班 療 診 殊 特		
			同 技 術 助 手 二 〇 備 計	同 技 術 助 手 二 〇 備 計	
			員 二 員 二 員 四 員 一	員 二 員 二 員 四 員 一	
			婦 一 婦 一 婦 一 婦 一	婦 一 婦 一 婦 一 婦 一	
			長 一 長 一 長 一 長 一	長 一 長 一 長 一 長 一	
			事 務 員 一	事 務 員 一	
			計 二 三(→)	計 二 三(→)	

人員總計 一九〇 (六) ( ) 内ハ兼務者ヲ示ス

(ニ) 事業進行ノ概要

既ニ防疫班派遣當初ヨリ占據各地ニ流行病發生ノ爲爾來極力之ヲ防遏ニ邁進シツツアリ其ノ状況左ノ通

(A) 北支防疫部ニ於ケル事業實施概況(八月二十日現在)

ヲ以テ一先ツ部員ノ派遣ヲ終了ス然ルニ一方感疫流行ハ例年ニ比シ季節ヲ早メ六月上旬ニハ中支方面コレラ患者ノ發生ヲ見ルニ至リタルト占據地域防疫事業ノ重要且緊急ヲ要スルモノナルニ鑑ミ早急ト適確ヲ期スベキ本事業ノ實施ニ當リテハ相當苦慮シタル處アリ

而シテ事業實施上必須ノ諸物件ノ準備及藥品類ハ其ノ最小限度ノ調達ヲ行ヒ事業ニ著手ス

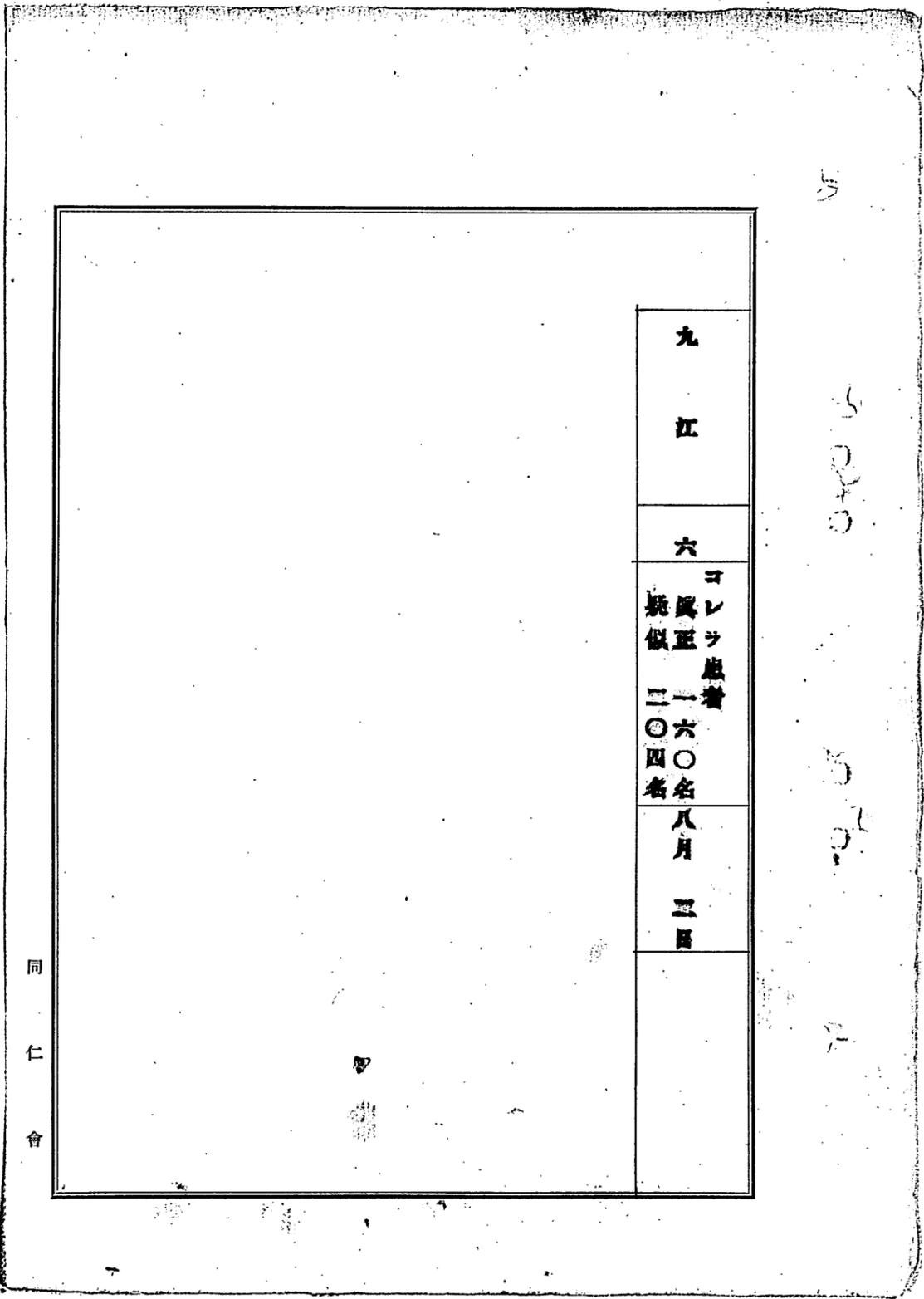
北京本部	人員	事業概要	開始期日	摘 要
製 作 部	一 九	北京天壇ニアリテ	七月二十日	
調 査 部	一 七	コレラワクチンニ		
教 育 部	二 七	五〇萬人分製出中		

南 京	上 海	漢 口	石 家 莊	茅 采、 威 海 衛	(四) 中支防疫部ニ於ケル事業實施概況 (八月二十日現在)	
					人員	事業概要
三五	九一		五	二	八月二日迄ノコレ ヲ患者數三名	八月十三日 太原班ヨリ分派 ニ依リ防疫醫員 漢口ニコトナ ル
水上防疫班ヲ編成 レシ江上ニ於ケルコ レヲ豫防ニ努ム	隔離 コレヲ患者ノ診察 等事ヲ防遏ニ努ム	他病汚染物ノ消 毒 コレヲ菌保有者ノ 隔離	實施 交通検査列車其ノ 他病汚染物ノ消 毒 コレヲ菌保有者ノ 隔離		六月十七日	
六月下旬					開始月日	摘要

同  
仁  
會

天 津	塘 沽	青 島	濟 南	徐 州	新 鄉	歸 德	太 原
一六	四	一六	一〇	五	三	一	五
コレヲ患者一九〇 名ニ達ス		陸海軍及民間ト氣 腫ヲ通シ事ヲ海 防防疫ニ從事シツ ツアリ	八月二日迄ノコレ ヲ患者數一名	八月二日迄ノコレ ヲ患者數一〇四名	陸軍防疫部ノ指揮 ヲ受ケ地方防疫ニ 從事コレヲ患者數 三四名		八月十日迄ノ豫防 接種施行者數七五 七三名
七月廿二日	六月廿四日	七月二日	七月九日	七月二十日	七月廿二日	八月十四日	七月一日
				濟南診療班ヨリ モ派遣シアリ			

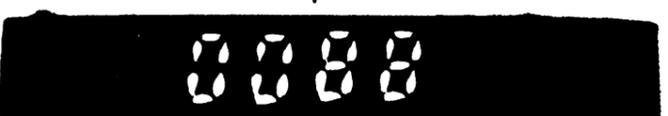
同  
仁  
會



九	江
六	コレヲ
眞正 二〇四名	一六〇名 八月 二日

同  
仁  
會

H-0255





中央防疫部

部長 醫學博士 谷口 謙二 (東大、大三)

次長 井上 善十郎 (東大、大九)

東京支隊長 小林 謙雄 (東大、大八)

職員 醫學博士 梅田 芳次郎 (北大、大一至)

澤 純三 (阪大、大一至)

津々見 仙甫 (千葉醫大、昭五)

河部 國太郎 (金澤醫大、昭五)

佐藤 雄三 (新潟醫大、昭五)

佐々木 利高 (北大、昭五)

西 信次 (北大、昭六)

吉見 幸一 (阪大、昭六)

吉田 謙視 (阪大、昭七)

中島 武三 (阪大、昭八)



警員

間島 修一郎 (阪大、昭八)

田中 清 (阪大、昭八)

松島 尉太郎 (北大、昭一〇)

西村 達三 (阪大、昭一一)

和田 秀雄 (阪大、昭一一)

末松 昌一 (阪大、昭一二)

根井 外喜男 (北大、昭一二)

船富 光 (阪大、昭一二)

弓削 五郎 (台北醫專、昭一〇)

宮川 一多 (台北帝大専門部、昭一二)

技術員

吉坂 泰治郎 (神戸高等専修工業學校中退、大九)

小林 義一 (谷村臨時小學教員養成所、明四五)

田中 一彦 (愛知縣立工業高製版科一年、明四二)

榎本 清助 (所澤尋高高等科、大二)

技術員

橋谷 英 廣 (京都藥學、大三)

宮 崎 三太郎 (東京藥學四年中退、明四二)

竹 村 英 夫 (東京岩倉鐵道校、昭三)

後 藤 喜代一 (關西商工電氣本科、昭一一)

成 瀬 進 而 (長野縣木曾山林校二年中退、明四五)

大河原 俊 平 (大阪府立農學校、昭八年)

水 宅 武 夫 (長野縣王瀧實業補習校、昭二)

竹 山 健 志 (鹿兒島縣川内中學校、大二五)

井 上 良 二 (台南第一中學校、大一二三年中退)

椿 竹 次 (熊本縣砥田實業農業校二年  
中退、大一一五)

謝 長 壽 (上海東南醫學院、昭七)

技術助手

山 本 愛 藏 (兵庫縣赤穂尋高小六年、大六)

星 野 源 二 (名古屋高商、昭一二)

原 島 勝 由 (東京府小河内村東小學校、大二三)

技術助手

中務 種吉 (大阪南豊島村小學校、大二〇)

飯田 謙嗣 (函館中學校、昭七)

淺井 豊丸 (佐渡中學校、昭五)

山谷 幸治 (東京齒科醫專中退、昭九)

山縣 正人 (根室商業、昭五)

古谷 親雄 (札幌商工三年、昭一三)

諏訪 廣一郎 (札幌一中、昭一一)

小林 敏夫 (札幌商工、昭一二)

梅澤 暉雄 (札幌二中、昭一三)

末永 昌夫 (札幌二中、昭一二)

後藤 新七 (岐阜縣八劍小學校、大四)

調劑員

山邊 徳七 (熊本藥專、昭八)

小關 信 (明治藥專、昭九)

森田 定輔 (大塚藥專、昭九)

秋山 弘 (明治薬専、昭九)

榎 美守 義 (長崎醫大附属薬専、昭一〇)

瀧川 幸吉 (大阪薬専、昭一三)

中村 桃吉 (明治薬専、昭一二)

事務長 草壁 龜雄 (佐賀縣唐津中學四年中退大三、北京同學會大五)

藤瀬 次郎一 (神戸高等商業學校、大一三)

事務員 藤田 清 (小西薬學、昭一三)

海保 直史 (中大専門部商科、大一二)

李 泉 (台灣總督府國語學校師範部明三)

松田 輝彦 (鳥取商業、大四)

矢吹 政治郎 (福島縣石川中學、昭四)

東 義一 (關西大學第二商業昭五)

看護婦長 齋藤 シゲ (新潟醫專附属看護婦養成所、大四)

看護婦 松本 ハツ (看護婦講習所、大一、看護婦講習所、昭二)

看護婦

奥田 時子 (海軍共済組合呉病院看護婦講習所昭三)

金刺 ヨシノ (台北醫院看護婦養成所、昭三)  
(台北醫院助産婦科、昭五)

松崎 ミズエ (大阪松岡外科附屬看護婦學校、昭四)

福岡 絹子 (三重縣岡波病院附屬看護婦學校、昭五)

谷村 サキ (大阪緒方病院看護婦教育所、昭六)

浦柄 アキ子 (台北醫院看護婦講習所、昭八)

瀬田 ヒサ子 (熊本看護婦講習所、昭六)

森本 スエ (尼崎市産婆養成所、昭四)

藤原 君江 (福岡市福岡産婆學校、昭九)

柿田 スエ (大阪醫專附屬看護婦學校、昭七)

市原 タカヨ (島根縣邑智女學館、昭六)  
(大阪市土肥病院看護婦養成所、昭九)

松岡 光枝 (大阪市民病院看護婦生徒、昭七)  
(同病院産婆生徒、昭一〇)

坂本 米子 (鳥取市吉田看護婦養成所、昭六)

井口 きよ子 (大阪府産婆検定試験合格、昭七)  
(大阪府看護婦試験合格、昭一〇)

看護婦

内田 ミキ (大阪市原田看護婦養成所、昭九)

西上 トシエ (三原市看護婦講習所、昭一一)  
(同産婆講習所、昭一二)

半田 二子 (岡山縣衛生會産婆看護婦學校、昭一〇)

徳原 千代子 (大阪市大阪看護婦學校、昭一一)

鳥井 はな子 (金澤醫大附屬醫院看護婦養成所、昭七)

八木 マサ子 (大阪市原田産婆看護婦養成所昭一〇、同産婆科昭一一)

宇野 房江 (大阪市稻葉病院見習看護婦、昭六)  
(大阪府谷口醫院見習看護婦、昭七)

吉永 澄江 (台北醫院看護婦講習所)  
(台北醫院助産婦講習所、昭一三)

鹽田 哲子 (台南看護婦講習所、昭一〇)

大友 芳子 (台北醫院看護婦講習所、昭一〇)  
(台北醫院産婆講習所、昭一三)

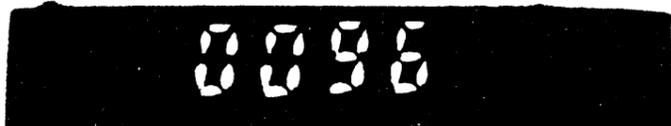
川上 サダメ (台北醫院看護婦講習所昭一二)

齋藤 フミ子 (台北看護婦講習所、昭一二)

雇員

池羽 邦雄 (明治商業、大一一〇)

藤井 ユキ子 (信濃橋タイピスト養成所昭一三)



借人

江淵 俊雄 (久留米市尋高高等科、大二)

下 市郎 (高岡尋高等三學年卒業、大二)

陳 培 輝 (台北大稻埕公學校、大七)

吉 田 定 夫 (大阪市北區高等科、大九)

矢 倉 幸 作 (大阪府千早村農業補習校、大一三)

出 野 實 (松山市立小學校、大六)

日 外 庄 太 郎 (大阪市關西甲種商業學校本科二年中退、大九)

樋 岡 敏 吉 (鹿兒島縣肝屬郡大根分町神川尋高高等科大、一三)

豐 嶋 武 夫 (關大第二商業第三學年修業昭二)

高 安 芳 一 (大阪高安尋高高等科、昭四)

青 柳 勇 (札幌市苗穂小學校高等科、昭四)

熊 谷 清 (蒲田自動車學校、昭四)

澁 谷 政 藏 (新潟縣北蒲原郡五十公野尋高高等科、明三九)

小 山 鐵 四 郎 (北海道余市町沖尋常、大四)



傭人

石森 佐一 (瀬戸田高等小學校、大二)

小山 壽太郎 (香川縣乙種高業二年、大八)

山本 彌太郎 (大阪小路小學校、大九)

渡邊 薫 (福井市進歩小學校、大一二)

磯野 榮治郎 (北海道洞爺高、大四)

浦柄 清太郎 (島根縣川本町小學校明四二)

藤島 福太郎 (元佐世保海軍病院、同海兵團尉夫)

松原 明 (札幌市西創成尋高高等科、昭三)

森 猛 (北海道仁木村尋高尋常科、大一一)

諏訪 エイ (岩手縣盛岡高女、明四〇)  
全 校補習科、明四一)

高田 義男 (大分縣豊岡尋高高等科、昭六)

合計 百二十二名

總計 二百二十七名